

留学結果報告書

山梨大学大学院芸術文化コース 市川沙絵

私は2018年8月16日から2019年7月31日までの約1年間、ハンガリーのブダペストに音楽留学をしていました。ハンガリーはリストやバルトーク、コダーイなどの著名な音楽家を生んだ国であり、コダーイの理念による音楽教育も盛んに行われています。日本から約9000km離れた見知らぬ地での生活には不安もありましたが、音楽を学ぶものにとって非常に恵まれた環境の中でたくさんの出会いや経験を得ることができ、とても充実したかけがえのない時間を過ごすことができました。

ブダペストでは、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学という学校に通い、ピアノと室内楽、英語、ハンガリー語の授業を受けていました。専科となるピアノのレッスンでは **Nemethy Attila** 先生に師事し、毎週大変意義のあるレッスンをしていただきました。今までにも海外の先生に指導していただいたことは何度ありましたが、**Nemethy** 先生は私がこれまで出会ったどの先生方よりもエネルギッシュで、初めてレッスンを受けたときはその熱量に圧倒されてしまい、これからの1年どれだけついていくことができるだろうかと不安になったほどでした。レッスンは週に1回で日本の大学で受けていた時と同じ頻度ではありましたが、その進捗の速さや周りのレベルの高さは全く異なる環境となり、慣れるまでは必死でした。私は普通高校から山梨大学、そして山梨大学大学院と進学し、音楽大学やその附属高校等で勉強したわけではないので、リスト音楽院で学ぶ他の学生に比べると音楽を専門的に学んできた時間は圧倒的に少なかったと思います。しかしブダペストにおいて同じ環境に置かれている以上それは何の言い訳にもならないし、そういう考えをしてはいけないとも思ったので、



(リスト音楽院本校舎)



(レッスン室)

留学中は毎日 5,6 時間はピアノに向き合い練習していました。それだけ準備をしたつもりでもレッスンに行くと思うように弾けなかったり、先生から指導していただくことに対して自分一人ではこんなことにも気づくことができなかつたのかと痛感して悔しかったりと、落ち込んで帰ることが何度もありました。自分の実力に悩んだことはたくさんありましたが、先生の人柄やレッス

ン内容は大好きで、毎回とても楽しかったです。“日本人の小柄な女の子”としてではなく“たった一人の演奏家”としてもっともっと“表現をする”ことの大切さを教えてくださった先生にはとても感謝していますし、尊敬しています。

室内楽では、前期はイスラエル人フルーティストとハンガリー人チェリストと、後期は中国人クラリネットリストと日本人ヴィオリストとともにトリオを組んでいました。これまでトリオという演奏形態を経験したことがなく、また海外の人と一緒に演奏するという事自体初めての事だったので、初めはとても緊張しました。ピアニストは普段一人で演奏することが多いので、英語を使ったコミュニケーションの中でどのように一つの曲を作り上げていくか不安でしたが、実際にやってみるととても楽しく、アンサンブルの素晴らしさを毎回感じていました。音楽は世界共通言語とよく言われますがまさにそのことを実感し、上手く言葉で伝えることができなくても音楽の中でお互いの意図を感じ取れる瞬間は至福の時間でした。また他の国の人と一緒に演奏することで、日本人との演奏の違いをダイレクトに感じることもできました。私たち日本人は良くも悪くも楽譜に忠実に、正確に演奏することが大前提であり、合わせる事が優先というようなところがありますが、彼らは間違えたりずれたりすることよりもまず音楽性を優先していて、どう演奏したいかということについて自分の意見をしっかりと持っており、きちんと伝えます。どちらの方が良い悪いということは一概には言えませんが、少なくとも彼らの姿勢を見習うことも必要であると感じました。この経験を活かして日本でもまたこういった室内楽を積極的に演奏出来ればと思っています。

大学では音楽に関しては基本的に実技のレッスンのみでしたがハンガリーの音楽教育にも興味があり、自身の修士論文としての研究の中でもそのことを取り上げたいと考えていたので、個人的にブダペスト市内の音楽学校での視察とインタビューも行わせていただきました。



(音楽学校のソルフェージュのクラス)

初めにも記したようにハンガリーはコダーイという世界的に支持されている音楽教育家（作曲家）を生んだ国でもあり、彼が提唱したコンセプトに基づいた音楽教育が系統的に行われています。私が視察した音楽学校は普通学校と並行して通う学校で、集団でのソルフェージュ授業と楽器の個別指導をそれぞれ週に2回ずつ行っています。6歳から22歳まで通うことができるそうですが、そのほとんどは小学生で、14歳になってより専門的に音楽を学びたい人は音楽高校に、さらにその先も学びたい人は私が在籍していたリスト音楽院のような大学に進めるようになっていきます。このような音楽学校はハンガリー国内に約200、ブダペスト市内では全区に設置されているようで、幼いころから音楽を学ぶ環境が整っていることがよくわかります。さらに驚いたのはその学費で、半年で7000Ft、つまり日本円で約2800円という安さでした。音楽高校については学費は無料ということで、コダーイの理念の一つである「音楽は万人のためのもの」という考えが浸透していることを実感させられました。

また今回の留学を通して、自分自身の内面も成長させることができた実感しています。これまでずっと慣れ親しんで生活してきた山梨、日本という環境を離れ、言語も人々も文化も異なる地において一人で生活をする中で、日本、日本人、そして自分というアイデンティティーを見つめ直す機会となりました。例えば、ビザや滞在許可証の取得、銀行口座の開設、携帯電話の契約、その他様々な手続きにおいて、初めから上手くいくということはほぼありませんでしたが、そのような経験が続いた結果、1回やってダメだったとしても落ち込みすぎない、できるところまで自分の力でやる、というポジティブな考え方にシフトチェンジすることができるようになりました。また日本では遠慮がちだったり、思っていることがあっても人目を気にしてなかなか言い出せなかったり

ということもあったのですが、ハンガリーでは、たとえ難しいと思われる状況だったとしても自分はこうしたいのだという意思表示や希望を伝えることを積極的に行うことでその状況を変えられるかもしれない、それをしなければ何も変えられない、ということに気づくことができました。このようなことは考えてみれば当たり前のことのようにですが、実際に自分がそういった状況に置かれるまではなかなか至らない考えだったので、身をもって経験しそこから学ぶことができたことは自分にとって大きな財産になりました。まさに留学をすると視野が広がるという言葉通りで、以前よりも物事を多面的に捉えることができるようになり、人として成長することができたと思います。

留学を終えた今、今度はこの経験をこれからどのように活かしていくかということを考え、実行していく時となりました。ピアノ・音楽を通して人間形成に関わっていくことで、学校や家庭以外のもう一つの教育機関のような音楽教室を展開すること、音楽を愛好する人々を増やすこと、幅広い世代やレベルの生徒さんに対応できる先生になること。これらは以前から私が実現させたいと思っています。幼いころからピアノに親しみ、大学では教育について学んできた私が、自分にしかできないこと・やりたいことはなんだろうと考えた結果見つけた目標を達成するため、ただピアノのスキルを教えるだけの先生ではなく、生徒さん一人ひとりと人として向き合い信頼関係を大切にしながら、それぞれにどのような指導でアプローチしていくかを考えていけるような先生になりたいと思っています。今回の留学の中ではこのことを踏まえたうえで、主に自分の演奏スキルを向上させること、知識を増やすこと、ハンガリーの音楽教育の実態を知ることなどを中心に勉強してきました。ハンガリーは音楽分野がとても盛んで、たとえ日本で同じやり方をしたところでそのまま受け入れられるわけではなく、同じ結果が得られるものでもないと思います。しかし、幼児・初等教育においては活用することができるのではないかとこの部分もいくつか見受けられました。例えば、ハンガリーでは今でも民謡やわらべうたをととても大事にしており、音楽教育の初期段階ではかなり重要な位置に置かれています。この考え方に共感し、日本においてもわらべうたを用いて遊びと歌、音楽を連携させて子どもたちが自発的に学ぶことができれば、その後の学習においても良い影響を与えることができるのではないかと考えたので、自分が指導する際にもぜひ取り入れていきたいと思っています。音楽は、衣食住のように、生きていくためにどうしても必要なものではないと考える人もいるかもしれませんが、人間が古代から親しんできた歴史があるように、音楽はどんな時も全ての人に寄り添ってくれます。支えてくれたり、元気をくれたり、楽しませてくれたり、無限の可能性を持っていると思います。自分の指導や演

奏を通じて、そのことに気づくきっかけを与えられる存在でありたい、子どもたちに夢を与えたりその夢を支えたりできるような存在でありたい、という目標のもと、後進の育成に取り組んでいきたいと考えています。

この留学を通して、本当にたくさんの学びや経験、出会いを得ることができました。ハンガリーにいる間に、何度「ここに来てよかった」と感じたことかわかりません。大学に入ってから幾度も考えてはあきらめかけましたが、たくさんの人に支えられ応援していただき、実現させることのできた留学でした。



日本を離れてまで音楽を勉強することを後押ししてくれた家族や先生、仲間たち、そしてこの人材育成事業において経済面で支援してくださった山梨県のみなさまには心より感謝しております。今後はこの経験を活かし、自分にできることで精一杯社会に貢献していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

(ブダペストのドナウ川沿いの夜景)